

「兵庫県南部大地震 記念の日」
追悼礼拝 挨拶

兵庫教区総会議長 東島勇人

兵庫教区総会議長の東島勇人と申します。教区を代表してご挨拶させていただきます。

一九九五年一月十七日午前五時四十六分に発生した兵庫県南部大地震により、未曾有の被害が生じてから丸二十七年の時が経過しました。公に発表されているだけでも、五一四名のこどもたちを含む六四三四名の方々のいの



ちが失われました。そして、地震に起因するさまざまな要因で亡

くなられた方、心や体に痛みを負った方、経済的・社会的な困難を強いられた方の数は数え切れません。その意味で、あの震災は痛みと悲しみの出来事であったと言わざるを得ません。また、あの時こうすることができなかった、もっとうすればよかったという後悔の思い。今日のお話にもありましたように、被災された方々とずっと共にいることのできなかったことへの思い。そういった思いを誰もが少なからず抱いて、あの日以降の時を生きてこられたであろうことを思います。その中で、今日この地震発生の日に、YouTube による配信という形にせざるを得ませんでした。小林よう子さんを説教者にお迎えし、あの日以降の時を思い起こしつつ、共に追悼の祈りと賛美を捧げました。そして、今を生かされている者として、これからの時を、何を大切に、どのように生

きていくのかについて思い巡らす時となりました。

個人的にも、小林よう子さんがあの地震前後を過ごされた神和教会とその地域で、その少し前までの約二十年間を過ごした者として、幼い頃から自分が暮らし、様々な思い出のつまった会堂や牧師館、遊びまわった教会の庭や地域を思い起こし、その全てが見る影もない程に被災し、そこで共に生きた方々の命が失われ、傷つけられたことへの痛みと悲しみを再び感じつつ、お話を伺いました。

そして、小林よう子さんご家族、また教会や地域の方々が、もっと大きな痛みと悲しみの中にあって、教会という場所において聖書の言葉と人に新たに出会うことよって、支えられ、変えられ、その後を生きる道を見い出していかれたこと。そのことを伺い、今を生きる私たちにとっても大切な示唆と励ましをいただきました。

本日、説教にてメッセージを語ってくださった小林よう子さんと、この礼拝を整えてくださった奉仕者の皆さまの労に、教区を代表し心から感謝申し上げます。

兵庫教区では、地震発生までの日常と宣教の在り方を根源的に問われる中で、「地域の再生なくして教会の復興はありえない」との宣教姿勢を示されました。また、「被災教区の震災五年目の宣教にあたっての告白」の言葉を自らに内実化していくべく、それぞれの教会／伝道所、および教区の働きを新たに築いていく取り組みを続けてきました。その「告白」の中に、「震災の現実から教えられたのは、隣人への関心、関係の豊かさを生きることであると信じます」という言葉があります。わたしは今日も含めてこの告白を口にする度に、どれだけ隣人への関心を持っているのか、誰の隣人になろうとしているのか、どんな関係をその人たちと築こうとし、それは本当に「豊かさ」と言

えるものになっているのか、と自分自身や教会の日常が問われる思いがしています。

本日は、各地で様々な関連行事が行われていますが、兵庫教区としては特に、本日午前に行われる予定で新型コロナウイルス感染拡大の影響で残念ながら中止余儀なくされた、西宮の高松公園での「大地震子ども追悼コンサート」と、正午から神戸市役所前で開催されました「一・一七の追悼・連帯・抗議の集い」に連帯の思いを示して参りました。子どもたちの命とその後送るはずだった人生が失われたこと、住まいをはじめとする暮らしに必要なものが守られず、保障されず、命を脅かされている方々がおられることを、これまで兵庫教区として携わってきたコンサートや集会や取り組みを通して、繰り返し再認識させられてきました。

本日の神戸市役所前での集会でも、被災者の命や生活を顧みない人々の思いや社会状況に対す

る憤りの言葉と、魂の叫びとしての歌。神戸市や西宮市による借上げ復興住宅からの追い出し施策と、それに応じない人を行政として裁判で訴えるという暴挙に對して、当事者としてこれからも命ある限り闘い続けると語られ、寒風の中で集会宣言を読み上げられた八十八才の女性の姿。そういった、心から溢れ出るような言葉が次々と語られました。

私も兵庫教区としての連帯の言葉を一言アピールさせていただきましたが、それらの方々の言葉と思いに圧倒され、それでも自らと教会の在りようを問われる思いがいたしました。自分とその方々との違いは何なのか、と考える時、それは、自分自身の在りよう、そして他者の思いや現実、どこだけ真剣に、また日常的に向き合っているかどうかの違いであるように感じています。そのことは、新型コロナウイルスによるパンデミックといわれる現在の状況において、より一層明らかに

されてきたことだと思えます。

だからこそ私たちは、今日の説教にもありましたように、私たちにとって大切な場所である教会を通して、これからも聖書と人に出会い続ける中で、自分が問われ、変えられ、一歩踏み出していくことを恐れず、むしろ、そのことの中に喜びと希望を見い出している者でありたいと願うものです。

最後になりますが、内外の被災者支援を中心として活動する被災者生活支援・長田センターは、現在主事不在の状態が続いていますが、佃真人運営委員長をはじめ委員が懸命に働きを継続しています。「復興」という言葉の陰で、痛みと悲しみを抱えたまま「時」の流れが止まってしまっている方があることを忘れず、人の命と心を守り、暮らしを取り戻していく取り組みに、これからも私たちは長田センターの働きを軸として連なっていきたいと願います。また、被災を体験した教区として、東日本大震災をはじめ各

地の自然災害の被災地や、東電福島原発事故による放射能汚染の被災地の方々とも、その地にある教区の諸教会／伝道所の取り組みに繋がらせていただく形で、寄り添っていききたいと願っています。引き続き、長田センターの働きも覚えてご支援ご協力くださいますよう、この場を借りてお願い致します。

今日の礼拝を皆さまと共に守ることができましたことを感謝いたします。また、説教を語ってくださった小林よう子さんに改めて感謝申し上げます。

今もなお悲しみと痛みの中にいる方々の上に慰めと導きを祈りつつ、私たちもその方々に出会い、変えられていくことによって、共に生きていくことの出来るようにと願います。そして、今日のうたにありましたように、はじめの一步、あしたへの一步を踏み出していく思いを新たにしたいと思えます。本日は誠にありがとうございました。

「編集後記」

私の個人的経験から話を始めることをお許しください。私は神学校に入る前から、当時の教団統一原理問題全国連絡会で、小林よう子教師の御連合い健志教師と話をする機会を多く持っていました。健志教師が私が教師になることを知って、(ほめ言葉として受取っていますが)「ピユアすぎて心配だ」と言っておられたと聞き、その後ずっと大切な言葉として思ってきました。

震災直後、小林よう子教師が当時は健志教師の御連合いとしておられた、神和教会を訪問する機会を持って、初めて訪問できたのは仮設の会堂が建った後でした。震災二年后、私が兵庫教区に転任して間もない頃、健志教師が若くして急逝されたニュースを聞いた時は、本当に強い衝撃を受け、大切な方を失ったことに、大きな痛みを覚えたことを、今でも強く思い出します。よう子教師は、記憶にある限り、その葬儀の場で初めてお見掛けしました。

しかしその後、教師の道に進まれたことを聞き、健志教師の志は受継がれていると感じました。その時以来、ずっと私の方が励まされていく思いを持っています。

今牧しておられる八戸の地も、東日本大震災の大津波で被災し、犠牲者を出した地です。決して被害は小さくないながら、八戸の方々は、震災直後に「自分たちは大丈夫なので、大きな被害を受けた地域を支援してください」と語っておられたと聞いています。

かつて岩手県に住んだ経験からですが、青森県八戸を含む三陸の沿岸地域はどこでも、冬季はあまり雪が降らないようです。しかし、厳しい寒さの中、路面が凍結し、雪が降っていないだけ、かえって交通には危険な状態が続きます。東日本大震災後も、三月とはいえ、三陸は寒い時期が続きました。阪神・淡路大震災直後の被災地も、厳冬の中、ガレキに交通の便を阻まれた被災生活を余儀なくされたわけで、規模の大小はともかく、被災の苦しさには似通ったところがあると感じています。

す。その両方の場に立つ経験を持たれている小林教師が、今回の追悼礼拝の説教を担当して下さい。その今回の追悼礼拝は、昨年引き続き残念ながら、リモート集会となりました。毎年兵庫教区以外の地から、震災追悼の祈りの日に兵庫の被災地を訪れて下さった方々がおられたことを思うと、口惜しい限りです。しかしそれでも、心を合わせての追悼の祈りは、必ず主のもとに届くことを信じています。

キリスト教関係の方に限らず、今も犠牲となられた方々への痛切な祈りの言葉を聞く機会があります。あの時大きく開いた、多くの方々の心の傷口は、被災から二十七年が経っても、まだまだ大きな口を開けていると感じます。そのような中、二年振りではありませんが、今回も全国の皆さまに震災ニュースをお届けできましたことを、心から感謝いたします。

(阪神・淡路大震災対策特設委員会

委員長 市川哲)

追悼礼拝の視聴は、こちら



※もしくはYouTubeのホームページから「兵庫県南部大地震記念の日追悼礼拝」で検索。

検索していただくと、二〇二一年の追悼礼拝も出てくるかと思えます。こちらもどうぞご視聴ください。

式次第はこちらでダウンロードしていただけます。



※もしくは「兵庫教区事務所」で検索。

こちらからもYouTubeに飛べます。